

2021年8月3日
富士山静岡空港(株)

「富士山静岡空港 安全の日」の創設について

1. 創設目的

富士山静岡空港は開港から13年目を迎え、開港より現在に至るまで幸いなことに大きな事故の発生及び自然災害の被災はありません。しかし、実際の災害が発生した時には、当社が率先して、災害に立ち向かう必要があります。

そこで、人為的ミス、慣れの防止や実災害被災時の不安などを解消し、実践する為に、安全への取り組みを強く感じる一日とすることを目的に「富士山静岡空港 安全の日」を創設しました。

2. 2020年度「富士山静岡空港 安全の日」の取組内容について

(1) 実施内容

事故や自然災害の被災時を想定した救護訓練や避難訓練などは実施しているが、旅客等がビルから帰れないことを想定した訓練は未実施だったことから、“滞留者対応”を2020年度のテーマとしました。

①被災体験講話：

大規模空港での台風災害の経験を通して、空港会社職員として求められる心構え、滞留者等の対応について、講師を招いて講話を開催
講師に以下の訓練を視察いただき、アドバイスを頂きました。

②初動対応訓練：

南海トラフ地震発生を想定した情報収集、社員参集、初動対応指示の訓練

③滞留者対応訓練：

地震発生後30分から1時間以内を想定した旅客対応に関する実地訓練
昨今の、自然災害時の滞留者に対する対応について、当空港でも被災した場合の対応訓練を実施した。総合案内所のお客様対応、外国語対応、救護所の設置等を実際に行い、問題点の洗い出し等を行った。

(2) 実施日について

当空港では、大きな事故や大規模災害の被災経験がなく、その思いを忘れないように日を決定したかったが、他の事例を参考に近年の日本で起きた最大の大規模災害が「東日本大震災」であることから、2020年度の安全の日を「2021年3月11日」としました。今後は、静岡県の防災強化月間に合わせ11月~12月に実施予定。

(3) 所見

被災体験講話では、大規模空港で発生した台風被害の体験を通して、お客様第一主義のもと対応出来たこと、対応出来なかったこと、秩序の維持が困難である環境下での空港管理者として必要となる心構えなどを聞くことができ、社員の意識の向上につながった。

滞留者対応訓練では、地震発生後に実施する、旅客に対する情報発信や救護所の設置について空港内に配備されている備品を実際に使用することで、災害発生時の対応手順の確認や本部との連携方法の検証を行うことが出来ました。

今回の訓練・講話の経験を活かし、実際に災害が起きた際の対応や次年度以降の「富士山静岡空港 安全の日」の改善を行って行きます。

以上